

なかゆくい

駐留軍用地跡地の利用

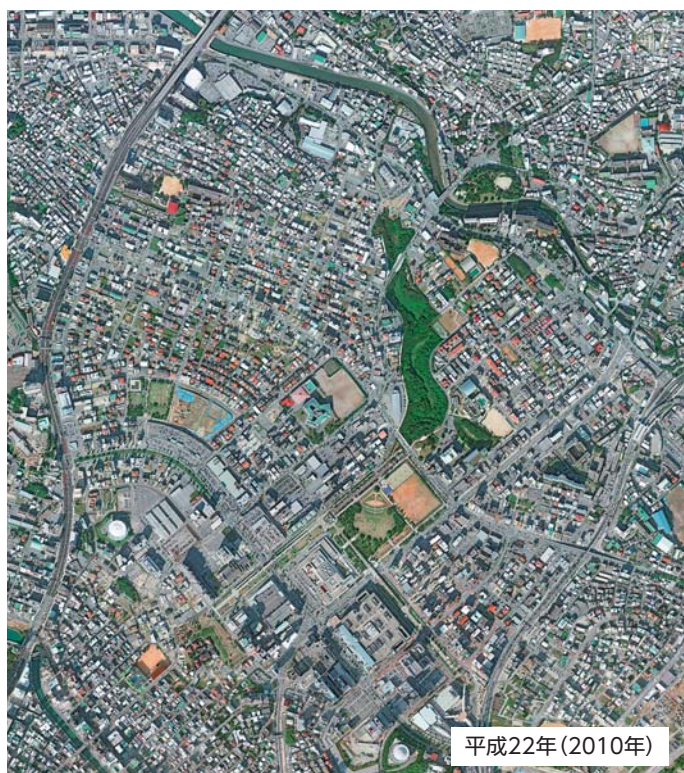
総務部跡地利用対策課

返還される駐留軍用地及び同跡地は、地域にとって新たに生まれる利用可能な空間となり、地域、ひいては沖縄全体の振興に影響を与えるものです。

今回は、駐留軍用地跡地のまちづくりの事例と、現在進行中の跡地利用の取組事例（3か所）を紹介します。



昭和52年(1977年)



平成22年(2010年)

まちづくりの事例

牧港住宅地区跡地（那覇市・那覇新都心地区） 面積（開発規模）：214ha

牧港住宅地区は、かつて米軍の家族住宅、ゴルフ場、プール、小学校等関連施設があり、約3,000人の軍人・軍属とその家族が住んでいましたが、嘉手納飛行場等の代替住宅施設に統合され、昭和62年5月に全面返還されました。

平成4年からは那覇の新たな都市拠点づくりとして、地域振興整備公団（現・都市再生機構）による土地区画整理事業が始まりました。

地区のほぼ中央には防災公園としての機能を持つ新都心公園が整備され、那覇市役所新都心銘苅庁舎、沖縄振興開発金融公庫、那覇第2地方合同庁舎1、2号館、県立博物館・美術館などの公共施設、大型ショッピングセンターや映画館などの商業施設、アパート・マンションなどの住宅施設が多数建設されるとともに人口も増加し続け、平成24年6月末現在、約2万人が住んでいます（那覇市・住民基本台帳人口）。

新しい街の姿が形作られてきており、活気あふれる場所に変貌しています。





現在進行中の取組事例



平成24年2月

読谷補助飛行場(読谷村)

面積:191ha／返還時期:平成18年12月31日

旧日本軍の「沖縄北飛行場」が、昭和20年米軍占領により「読谷補助飛行場」として使用されていました。

読谷村では、村民センターや学校などの公共・公用施設の整備や農業基盤の整備等による先進的農業集団地区としての整備を進めています。

キャンプ瑞慶覧・アワセゴルフ場地区(北中城村)

面積:48ha 返還時期:平成22年7月31日

アワセゴルフ場は、米陸軍が建設した沖縄初のゴルフ場でした。

北中城村では、区域の中心(約18ha)を複合型商業交流施設ゾーンと位置付けるとともに、区域の北側は医療・福祉ゾーン、また、南側は高台の眺望などをいかした住宅ゾーンを計画しています。



イメージ図



跡地利用計画図

ギンバル訓練場(金武町)

面積:60ha 返還時期:平成23年7月31日

ギンバル訓練場では、野外演習やヘリコプターの離着陸訓練が行われていました。

金武町では、住民検診や医療の充実、リハビリ等による健康増進と心身の癒しを図ることを目的に、地域医療及びリハビリ関係施設等の整備を進めています。

駐留軍用地跡地のまちづくりの事例としては、ほかにハンビータウン（北谷町）や小禄金城地区（那覇市）などがあり、やはり、人々の行き交う賑わいの空間に変貌しています。今後、返還された跡地がどんな形に生まれ変わり、どのように発展していくのか。さー、目を閉じて想像をたくましくしてみてください。どうです。ワクワクしてきませんか？

跡地利用対策課では、沖縄県及び跡地関係市町村と密接に連携を取りながら、駐留軍用地跡地の有効かつ適切な利用の推進に向けて、主体的な取組を行っている市町村に対して様々な支援を行っています。

市町村による跡地利用の取組は、当課ホームページ「**跡地利用の推進**」(跡地カルテ)に掲載しています。

<http://atochi.ogb.go.jp>